

第 49 回
日本臨床細胞学会近畿連合会
学 術 集 会
プログラム・抄録集



学術集会 会長 高橋健太郎
医療法人社団 昂会 日野記念病院 婦人科

会 期：令和 6 年 9 月 29 日（日）
会 場：ピアザ淡海（滋賀県立県民交流センター）
主 管：滋賀県臨床細胞学会

日本臨床細胞学会近畿連合会 <http://jsckk.umin.jp>
大会ホームページ <http://jscshiga.umin.ne.jp/kinki49/index.html>



第49回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会 会長挨拶

第49回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会は今年のNHK大河ドラマの「光る君へ」の紫式部のゆかりの地であります滋賀県臨床細胞学会が担当させて頂くことになりました。今年には正月の16時10分に発生したマグニチュード7.6（暫定値）、最大震度7、人的被害状況は7月1日現在で死者281名、行方不明者3名の能登半島地震で明けました。歴史を紐解きますと、私が初めて拝命いたしました第37回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会の12年前もNHK大河ドラマは「お江」で滋賀が舞台でした。そしてなんとと言っても3月には未曾有の東日本大震災が起こっています。また、6年前の第43回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会ではNHKの大河ドラマは滋賀には関係ありませんでしたが、平成30年7月豪雨により、西日本を中心に、広域的かつ同時多発的に河川の氾濫、がけ崩れ等が発生し、死者223名、行方不明者8名、家屋の全半壊等20,663棟、家屋浸水29,766棟の極めて甚大な被害が広範囲で発生いたしました。こう考えますと6年ごとに大災害が起きているような気も致します。

われわれ細胞診の領域においても、厚生労働省は「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」の一部改正を行い、対策型の子宮頸がん検診について、従来とは全く違うがん検診方法に舵を切った。すなわち2年に1度の20歳以上の女性に対する子宮頸部細胞診単独法から、30歳から60歳の女性は5年に1度のHPV検査単独法をPrimaryとすることを令和6年4月1日から適用とするとした。実施主体である市町村にとっては寝耳に水であり、細胞検査士にとっても、細胞診の需要の減少による死活問題に発展しかねる大災害である。

昨年は12月10日には河原邦光学術集会長のもとで大阪府臨床細胞学会の担当で第48回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会が現地とオンデマンドでかくも見事に会を成功されたことは皆様のご記憶に新しいことと存じます。何事につけても大阪の1/10であります滋賀県での開催ですので、大きな規模・内容での学術集会は出来ませんが、小規模さの故に一致団結することは早く、少数の会員で何とか学術集会を開催できるようになりました。新型コロナ感染症も5類感染症に移行してから1年以上経っていますので、今回は現地開催のみといたしたいと思います。学会のテーマを「琵琶湖のほとりで細胞診を考える」とし、特別講演、教育講演をそれぞれ1演題、ワークショップを2演題、スライドカンファレンス3症例、ランチョンセミナー1演題を企画いたしました。英気を養うために琵琶湖に集おうではありませんか！そして今回の学術集会が皆様の明日からの細胞学にお役に立てば幸いです。

第49回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会 会長 高橋健太郎
(医療法人昴会 日野記念病院 婦人科)

学会実行委員会

学術集会長	高橋健太郎	(医療法人昴会 日野記念病院)
実行委員長	山内盛正	(長浜赤十字病院)
運営事務局	林裕司	(滋賀医科大学医学部附属病院)
会計責任者	中村美紀	(淡海医療センター)
委員	九嶋亮治	(滋賀医科大学)
委員	森谷鈴子	(滋賀医科大学医学部附属病院)
委員	馬場正道	(済生会滋賀県病院)
委員	高橋顕雅	(滋賀医科大学医学部附属病院)
委員	太田諒	(彦根市立病院)
委員	今村眞治	(滋賀医科大学医学部附属病院)
委員	富田圭一	(彦根市立病院)
委員	宮平良満	(淡海医療センター)
委員	岩井宗男	(滋賀医科大学医学部附属病院)
委員	植田正己	(済生会滋賀県病院)
委員	馬野真次	(地域医療機能推進機構滋賀病院)
委員	田口一也	(市立大津市民病院)
委員	宮元伸篤	(市立長浜病院)
委員	土肥誠	(滋賀県立総合病院)
委員	重野恭子	(近江八幡市立総合医療センター)
委員	小栗大助	(大津赤十字病院)
委員	岡本明子	(市立長浜病院)
委員	籠谷亜希子	(大阪医科薬科大学)
委員	上林悦子	(済生会滋賀県病院)
委員	吉田章子	(地域医療機能推進機構滋賀病院)
委員	松本ひかり	(彦根市立病院)
委員	土田弘次	(長浜赤十字病院)
委員	前田賢矢	(市立大津市民病院)
委員	菅井祝	(大津赤十字病院)
委員	清水優輔	(彦根市立病院)
委員	向井理沙	(近江八幡市立総合医療センター)
委員	浦崎愛理	(近江八幡市立総合医療センター)
委員	山口大	(滋賀医科大学医学部附属病院)
委員	谷川新菜	(滋賀県立総合病院)
委員	森優華	(滋賀県立総合病院)
委員	守安岳征	(大津赤十字病院)

協 賛

湖翔会

滋賀県健康づくり財団

株式会社 日本セルネット

広告協賛

株式会社 メディック

ライカマイクロシステムズ 株式会社

株式会社 増田医科器械

株式会社 ニコンソリューションズ

白井松器械 株式会社

アストラゼネカ 株式会社

京都和光純薬 株式会社

会場へのアクセス

ピアザ淡海（ホテルピアザびわ湖）
〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20
TEL 077-527-6333



- JR 大津駅から京阪・近江バス
なぎさ公園線 約8分「ピアザ淡海」下車
- JR 大津駅からタクシー約5分
- JR 膳所駅から徒歩約12分
- 京阪電車石場駅から徒歩約5分
- 名神大津インターから車で約7分

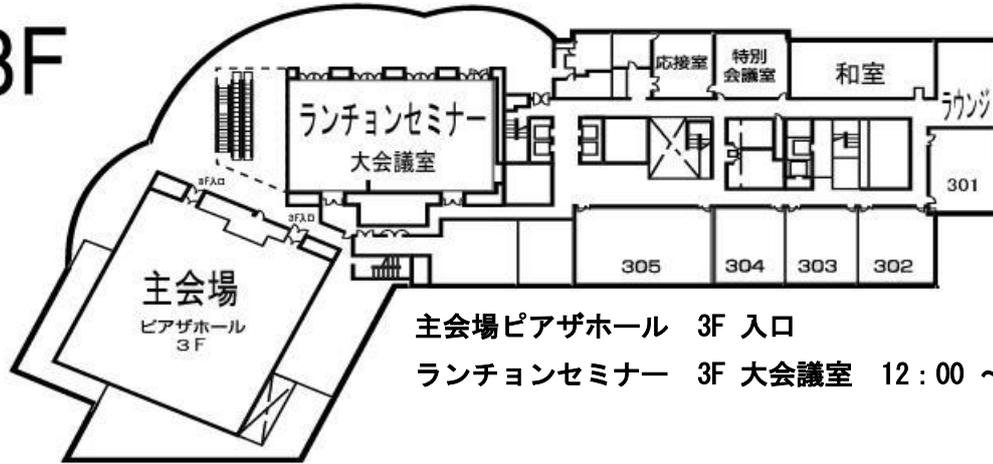
地下駐車場 77 台（有料）



注意！膳所駅には新快速電車は止まりません。普通電車をご利用ください。
新快速電車から普通電車への乗り換えは京都、山科、大津駅で可能です。

会場：ピアザ淡海会場図

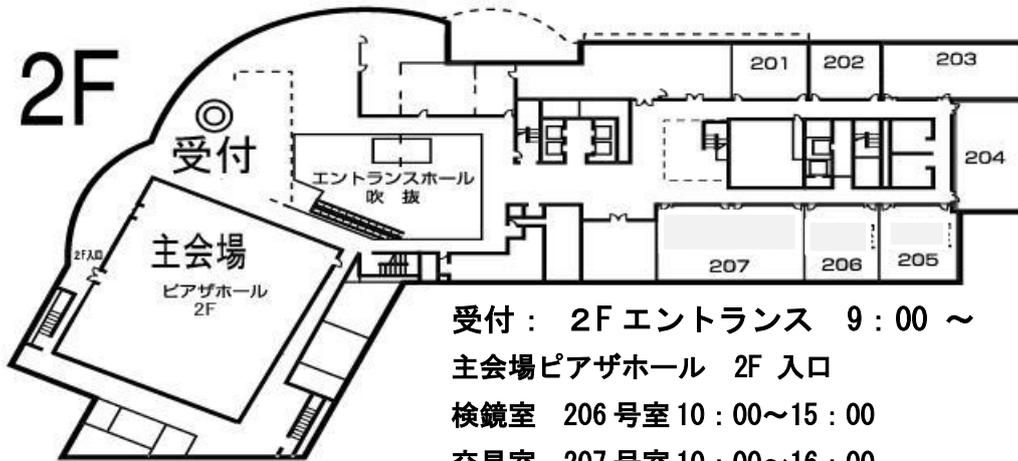
3F



主会場ピアザホール 3F 入口

ランチョンセミナー 3F 大会議室 12:00 ~ 13:00

2F



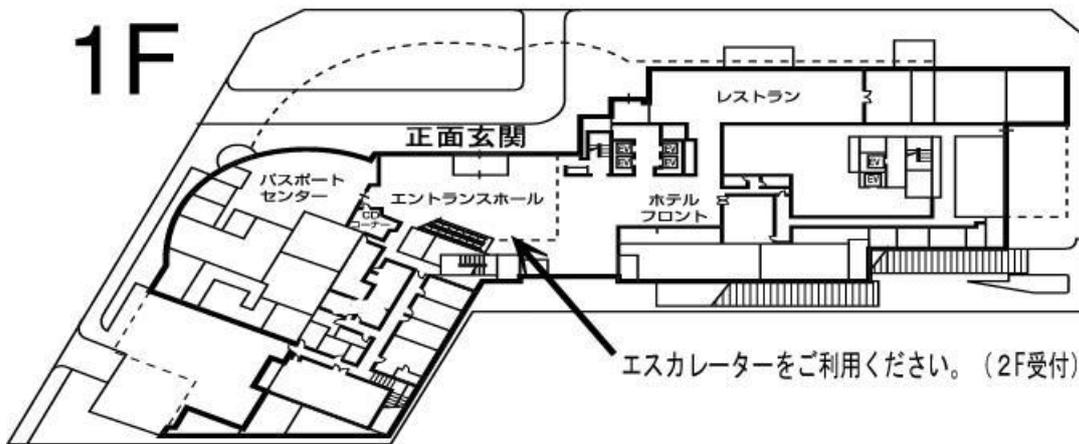
受付： 2F エントランス 9:00 ~

主会場ピアザホール 2F 入口

検鏡室 206号室 10:00~15:00

交見室 207号室 10:00~16:00

1F



エスカレーターをご利用ください。(2F受付)

びわ湖ホール連絡通路

会員および演者へのお知らせ

受付開始 9:00 2Fエントランス

会員の皆様へ

1. 当日参加費として各地域連携組織会員は受付で4000円をお支払いください。引き換えに参加証兼領収書を発行いたします。
2. ランチョンセミナーは整理券制となっております。整理券は9:00より配布いたしますが、配布は170名様先着順とさせていただきますので、ご注意ください。
3. 日本産科婦人科学会の出席単位および特別講演で産婦人科の領域講習単位が取得出来ますので、該当する方はe医学会カードをご持参下さい。
4. 細胞検査士の方は登録カードをご持参ください。参加証兼領収書を確認の上クレジットを発行します。
CT (JSC) 15点、(IAC) 7点
5. スライドカンファレンス症例は学会当日206号室にてバーチャルスライドを閲覧できます。

演者の皆様へ

1. ご発表はすべてPCによるプレゼンテーションで行っていただきます。
2. データはPowerPoint2021までで作成してください。(Macintoshには対応しておりません)

スライドカンファレンス症例閲覧 (10:00~15:00) 206号室

お飲み物、軽食(パン)無料サービス (10:00~16:00) 207号室

※提供: 松浪硝子工業(株)、武藤化学(株)、村角工業(株)

プログラム

学会テーマ「琵琶湖のほとりで細胞診を考える」

開会の辞 9:40~9:45

＜ワークショップ＞ 9:45~10:45

座長：馬場 正道（済生会滋賀県病院 病理診断科）

林 裕司（滋賀医科大学医学部附属病院 病理部）

テーマ「細胞診と遺伝子診断 -日常業務への応用と展望-

1. 「技師の立場より」

佐々木 伸也（堺市立総合医療センター 臨床検査技術科）

2. 「病理医の立場より」

中井 登紀子（兵庫県立はりま姫路総合医療センター 病理診断科）

教育講演（10:45~11:45）

座長：山内 盛正（長浜赤十字病院 病理部）

「細胞が織り成す不思議な形態 - 『なぜ・どうして』 を形態学的に理解するために -」

畠 榮 先生（神戸常盤大学保健科学部医療検査学科 客員教授）

会場移動 2Fピアザホール ⇒ 3F大会議室

ランチョンセミナー（12:00~13:00）

座長：井上 健（大阪市立総合医療センター 病理診断科）

「対策型子宮頸がん検診における HPV 検査単独法の導入と細胞検査士の立ち位置」

高橋 健太郎 先生（医療法人社団 昴会 日野記念病院 婦人科）

共催 ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社

休憩 13:00~13:15

会場移動 3F大会議室 ⇒ 2Fピアザホール

総 会 13:15～13:30

特別講演 (13:30～14:30)

座長：九嶋 亮治 (滋賀医科大学 臨床検査医学講座)

「骨軟部腫瘍の細胞診：その利用法、疾患概念や実際の見方について」

山下 享子先生 ((公財)がん研究会 有明病院病理部 副医長)

休 憩 14:30～14:45

<スライドカンファレンス> 14:45～16:15

座長：桜井 孝規 (大阪赤十字病院 病理診断科)

宮元 伸篤 (市立長浜病院 中央検査技術科)

症例1. 婦人科

出題・解説 今村 眞治 (滋賀医科大学医学部附属病院 病理部)

回答 細胞検査士 小林由利恵 (淀川キリスト教病院 病理課)

回答 専門医 新田 勇治 (奈良県立医科大学 病理診断学講座)

症例2. 呼吸器科

出題・解説 小林 建太 (神鋼記念病院 病理診断センター)

回答 細胞検査士 糸川 夏帆 (独立行政法人労働者健康安全機構和歌山労災病院
中央検査部)

回答 専門医 武田 奈央子 (京都府立医科大学附属病院 病理診断科)

症例3. 消化器科

出題・解説 小柳 由貴 (大阪国際がんセンター臨床検査科病理細胞診)

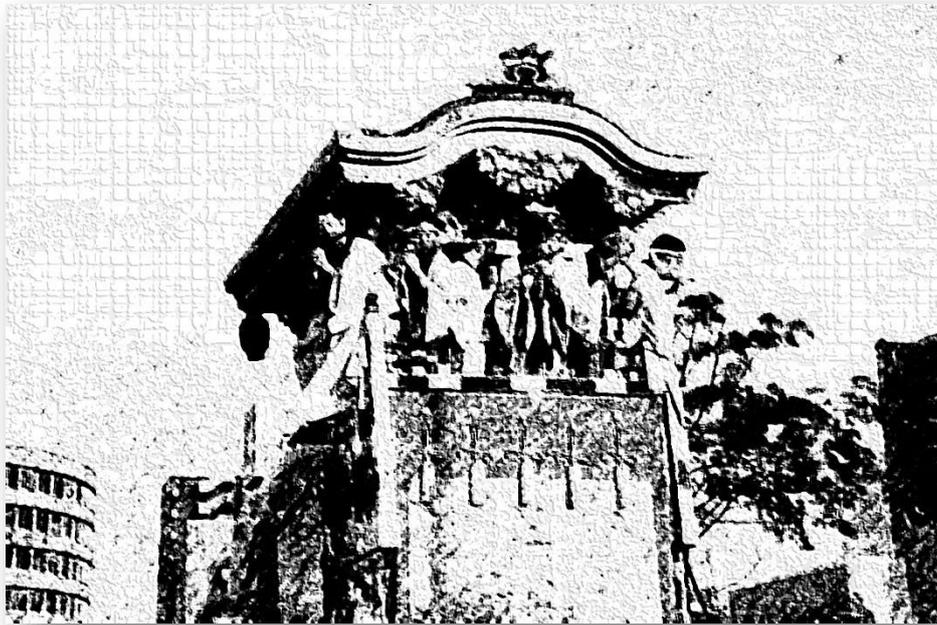
回答 細胞検査士 岡田 麻由奈 (兵庫県立尼崎総合医療センター 検査部)

回答 専門医 鉄田 汐莉 (滋賀医科大学医学部附属病院 病理診断科)

次期学術集会長挨拶 16:15～16:25

閉会の挨拶 16:25～16:35

抄録



◎大津まつり 開催日時

2024年10月12日(土) 夕刻～21:00 宵宮

10月13日(日) 9:30～17:30 本祭

【特別講演】

骨軟部腫瘍の細胞診:その利用法、疾患概念や実際の見方について

がん研究会有明病院病理部
山下享子

骨軟部腫瘍は発生頻度が低いうえ、細胞診を日常的に行っている施設は限られているため、骨軟部腫瘍の細胞診は一般的に馴染みの薄い領域と思われる。しかし当院では、整形外科から腫瘍関連の細胞診が年間約900件提出され、長年診療に役立てられてきた。骨軟部腫瘍の病理診断では、必要な免疫染色や分子病理学的検査が増加して、診断精度が上昇した反面診断確定までの時間が長くなる傾向があり、細胞診は、最も迅速に結果の出せる診断ツールとして依然重要な役割を果たしている。

日本においては、骨軟部領域では圧挫細胞診が行われることが多いが、圧挫には、捺印や穿刺吸引(FNA)と比べて標本に含まれる細胞数が多い、組織構築が保たれるといった長所がある。病理医にとっては、2次元の断面像から推測していた組織構築が、立体的なかたちで視覚的に確認できることも興味深い。また針生検と同時に、同じ14Gコアニードルで採取された検体の圧挫細胞診には、別の利点もある。こうした細胞診検体は、4 μ mの1～数スライス分しか観察できない針生検とは違い、採取された組織全体を含むため本質的に情報量がより多く、しばしば病理診断の参考になりうる。このメリットが十分生かせるのは、厚みのある標本でも光透過性の高い脂肪性腫瘍や粘液性腫瘍である。特に異型脂肪腫様腫瘍/高分化型脂肪肉腫と脂肪腫との区別においては、針生検よりも信頼性が高く、実用的な検査法となっている。

本講演では、骨軟部腫瘍の診断における細胞診の現状やその利用法について紹介し、頻度の高い脂肪性腫瘍を中心に、遺伝子異常を含む疾患概念や実際の細胞診の見方について解説する。本講演が一人でも多くの医師・細胞検査士に、骨軟部腫瘍の細胞診に興味を持って頂く機会になればと考えている。

【教育講演】

細胞が織り成す不思議な形態

— 『なぜ・どうして』を形態学的に理解するために —

神戸常盤大学 保健科学部

医療検査学科 客員教授

畠 榮

「認識」は基本的には哲学の概念で、主体あるいは主観が対象を明確に把握することを言う。知識とほぼ同義の語であるが、日常語の知識と区別され、知識は主に認識によって得られた「成果」を意味する。しかし認識は成果のみならず、対象を把握するに至る「作用」を含む概念である。なお形態学的なパターン認識は自然情報処理のひとつで、画像など多量のデータの中から、意味を持つ対象を選別して取り出す処理である。病理・細胞診断において多数の正常細胞の中から、特定の細胞や細胞が織り成すパターンを識別するなどの行為はパターン認識そのものである。「形」は本来、「カタ」と「チ」を合わせたもので「カタ」は外見的な型やパターン、「チ」は内面的な力を表現している。そこで細胞の外見と、そこに内在する本質的なものとを合わせて「形」として細胞をとらえ、細胞形態学を理解することが出来ればと考えると、細胞を観察する際に役立つと思われる細胞学的特徴を系統的に分類し、細胞が織り成す「形」を分類し『なぜ・どうして』形成されるのかについて述べていく。細胞を観察する場合には、まず細胞の構造や構築を念頭に置いて、それぞれの病変にとって特異性の高い所見を見つけるようにするとよい。特異性はないがその病変にしばしばみられる組織細胞所見は診断のヒントあるいは鍵となる。そのような形態が『なぜ』形成され、どのような意味があるかを見出し鑑別することも大切である。

なお、細胞診断を行う場合には二つの原則を念頭に置き細胞を観察することが重要である。つまり、第一に正常細胞は丸みを有し規則的かつ均一である。第二に核の形態は細胞の活動状況、また細胞質は細胞の機能的分化を反映する。良悪性の判定には核腫大、核形不整、クロマチンの不均一な分布、核小体の腫大、核細胞質比の増大などの所見が重要視される。

今回は細胞が織り成す不思議な形態学的特徴に関し、1) 腺細胞における上皮細胞極性、2) 乳頭状構造と血管新生、3) 上皮間葉転換 (Epithelial Mesenchymal Transition: EMT) ならびにアノイキス (anoikis)、4) Cell-in-cell、5) 小疱形成 (Blebbing)、6) 細胞外基質 (ECM)、7) 印環細胞、8) 線毛と微絨毛などの診断の『カギ』となる形態的变化について述べる。

【ランチョンセミナー】

対策型子宮頸がん検診における HPV 検査単独法の導入と細胞検査士の立ち位置

医療法人社団 昴会 日野記念病院 婦人科
滋賀県医師会会長
高橋健太郎

令和6年2月14日に厚生労働省は「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」の一部改正を行い、対策型の子宮頸がん検診について、従来とは全く違うがん検診方法に舵を切った。すなわち2年に1度の20歳以上（特に推奨する者は20～69歳）の女性に対する子宮頸部細胞診単独法から、20歳代と61歳代は従来と同様であるが、30歳から60歳の女性は5年に1度のHPV検査単独法をPrimaryとし、HPV検査を実施し、陽性と判定された場合のみ追加的にトリアージ検査として、同一検体を用いた子宮頸部の細胞診を実施する新たな方法を市町村が「長期の追跡管理が可能」などの要件を満たす場合には令和6年4月1日から適用とすると発出した。実施主体である市町村にとっては寝耳に水であり、細胞検査士にとっても、細胞診の需要の減少による死活問題に発展しかねるある意味では大災害である。費用対効果から考えると市町村は新しい方法が経費の削減にはなるが、対象年齢をとっても煩雑である。本ランチョンセミナーではこの新しく導入されたHPV検査単独法について、「対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル」も含め解説するとともに、今まで子宮頸がん検診の細胞診業務に携わっていた細胞検査士の今後について考察をしてみる。

【ワークショップ】「細胞診と遺伝子診断 -日常業務への応用と展望-」

1. 【技師の立場より】

堺市立総合医療センター 臨床検査技術科¹⁾、病理診断科²⁾
佐々木伸也¹⁾、高瀬未穂¹⁾、鈴木雄策¹⁾、茂山かおり¹⁾
井櫻雄斗¹⁾、越岡唯¹⁾、安原裕美子²⁾

近年、がん遺伝子情報解析の急速な発展や分子標的薬の開発の進歩により、病理検体を用いた遺伝子解析が急速に広がりつつあります。病理検体を用いた遺伝子解析には Polymerase chain reaction (PCR) や、Fluorescence in situ hybridization (FISH) 等の Allele-specific detection (特異的遺伝子検査) が主流を占めていましたが、近年では次世代シーケンサー等を用いた Multiplex genomic detection (網羅的遺伝子検査) が普及してきました。次世代シーケンサーなどの網羅的遺伝子検査を院内で実施するには設備への投資や、人材教育、人員配置などの問題で、院内実施へのハードルは高く、外部検査施設に委託する施設が多い。一方、PCR や FISH 等の特異的遺伝子検査は技術の進歩により操作性が簡易な機器が普及し、次世代シーケンサーに比べれば、低コストで導入できるので、院内実施へのハードルは低いと考えます。特に PCR はコロナ禍において多くの施設で導入され、機器の開発も伴い簡易に解析できるようになりました。今回は FISH 解析について当院で実施している運用方法や、作業手順の工夫について紹介させていただきます。FISH にて検出できる遺伝子異常には、異数体・欠失・転座・逆位・増幅があり、メチル化や point mutation は検出できません。FISH 標本作製手順において重要なポイントは酵素処理とハイブリダイゼーション後の洗浄にあると考えます。この2つの工程が上手くいけばシグナルの入った綺麗な標本が仕上がります。シグナルが入らない原因は酵素処理によることが多いです。FISH 像の判定、判断は赤色と緑色が重なると黄色に見える色の3原色の原理を基にシグナルの色と数を数えて、染色体(遺伝子)の異常を推定します。一見複雑そうに見える FISH 解析ですが、実験や研究ではなく業務として行うには、効率的な作業手順の確立が必要と考えます。

また、病理検査室において FISH 解析の対処となる材料は組織検体が多いですが、細胞診検体でも解析は可能です。細胞診検体を用いた FISH 解析についても紹介させていただきます。

2. 【病理医の立場より】

兵庫県立はりま姫路総合医療センター 病理診断科
中井登紀子

近年、がんの薬物療法の発展に伴い、遺伝子解析検査や分子病理学が、がんの診断や治療方針の決定において重要な役割を果たすようになってきている。遺伝子検査は、既にエビデンスが確立した標準治療へのアクセスを目的とするコンパニオン診断(CDx)と、エビデンスが十分に確立されていない治療法へのアクセスを目的として包括的な遺伝子変異等のプロファイルを取得する次世代シーケンサー(NGS)を用いたがん遺伝子パネル検査(CGP)に大別され、前者は主に肺癌領域で行われており、後者は全ての固形がんを対象としている。

呼吸器検体を用いた肺癌コンパニオン診断などでは細胞検体も用いられているが、概ねFFPE 組織検体で行われており、がん遺伝子パネル検査においては薬事承認上の制約から、FFPE 組織検体が用いられている。セルブロック検体の形で細胞検体も用いられているが、限定的である。

技術の進歩により、超音波ガイド下生検や、小さな病変からも組織が採取できる様な細い内視鏡が用いられるようになったことなどから、採取される組織量は非常に小さくなっており、組織が採取されず細胞検体のみが提出される症例も少なくない。そのような場合、細胞診検体をコンパニオン診断やがん遺伝子パネル検査に用いることができるならば、組織検体が少量である場合にはその組織検体全てを組織診断確定のためだけに用いることができ、細胞診検体しか採取されていない場合においては、細胞診検体を用いて組織型の推定と遺伝子検査を行う事ができるようになる。

現在、細胞検体の検体処理方法について、日本臨床細胞学会から「がんゲノム診療における細胞検体の取扱い指針」が発刊され、国内において複数の変法が存在していた細胞検体の処理方法について、一つの指針が提唱された。それによって施設間差による核酸品質のばらつきの是正が期待でき、コンパニオン診断のみならず、FFPE 組織検体を用いるがん遺伝子パネル検査においても、細胞診検体への適用拡大に向けてその結果の質を保証するものとなり得ると考える。

【スライドカンファレンス】

1. 婦人科

【症例】 : 24 歳

【性別】 : 女性

【主訴】 : 不整性器出血、子宮内膜肥厚、高度貧血

【現病歴】 : 以前より不正性器出血を繰り返していたが、医療機関受診なし。

頭痛、嘔吐が出現、翌日になっても改善なく、手足のしびれも出現したため救急要請され、当院救急外来受診。Hb 5.1 と高度貧血あり。腹部 CT および直腸診で異常なく、婦人科疾患精査目的に婦人科コンサルトし、経膈超音波で子宮体部から頸管内および膈部に発育する血流豊富な子宮内膜腫瘍を認め、輸血および精査加療目的に入院となる。

【MRI 検査】 : 子宮内膜ポリープを疑う子宮内膜腫瘍

【材 料】 : ブラシ採取、子宮膈部直接塗抹標本

子宮内膜ポリープ様の病変が子宮体部から子宮膈部にまで及んでおり、子宮膈部病変から検体採取

2. 呼吸器科

【年齢】	: 50 代
【性別】	: 男性
【採取部位】	: 右肺腫瘍
【採取方法】	: VATS
【検体処理法】	: 捺印
【臨床所見】	: 多発肺結節
【既往歴】	: 高血圧症
【喫煙歴】	: 20-33 歳まで 15-20 本
【職業歴】	: クリーンセンターでゴミを燃やした時に出る灰の運搬。

50 代男性、交通外傷後の精査にて胸部 X 線で両側肺にびまん性粟粒大結節を認めた。

PET 検査の結果、右下葉肺門結節や多発の結節、下部気管傍 LN や鎖骨上、両側頸部 LN に軽度集積を認めた。

また甲状腺両葉にもびまん性に中等度の集積を認めた。診断目的のため VATS が施行された。

3. 消化器科

【年齢】	: 60 歳代
【性別】	: 男性
【採取部位】	: 十二指腸球部粘膜下～臍頭に及ぶ嚢胞性病変
【採取方法】	: EUS-FNAC
【検体処理法】	: すりあわせ法
【染色法】	: 迅速パパニコロウ
【既往歴】	: 直腸癌
【喫煙歴】	: 10 本/日×10 年 (30 歳時に禁煙)
【飲酒歴】	: 60 歳より禁酒
【臨床所見】	: 生化学・血液データ 特筆すべき所見なし。
【腫瘍マーカー】	: CEA、CA19-9、CA125、DUPAN-II いずれも正常範囲内

第 49 回日本臨床細胞学会近畿連合会学術集会
運営事務局

滋賀医科大学医学部附属病院 病理部内
電話 : 077-548-2605 FAX : 077-548-2605
E-mail : shiga.saibou@gmail.com

病理・解剖分野は白井松へお任せください

UltraGROSS

ウルトラグロス 切出しステーション



- ・切出し、撮影、ホルマリン分注が一元化できる局所排気装置
- ・オペレータへの安全性強化
- ・撮影装置は病理システムとの連携可能
- ・電動昇降機能
- ・用途に合わせて切出し、撮影、流し台位置変更可能

MAGNUS

自動組織包埋処理装置



- ・キシレンフリーと迅速包埋処理により得られる高い DNA/RNA 品質
- ・生産力と柔軟性を両立・促進させる設計
- ・組織包埋処理とパラフィンブロック作製を同時に実施
- ・LED 照明のカラーによる装置のステータス通知
- ・高精細超音波試薬センサーにより包埋処理中に使用されている試薬の適正と純度を検知

HANDEX 白井松器械株式会社

<http://www.shiraimatsu.co.jp/>

大 阪：大阪市中央区森ノ宮中央 1-19-16
東 京：東京都足立区扇 2-14-32
北 関 東：東京都江戸川区北小岩 5-6-9
九 州：福岡県糟屋郡須恵町佐谷 1447-1

Tel 06-6942-4181 (代)
Tel 03-5647-1570 (代)
Tel 03-6458-0697 (代)
Tel 092-687-8710 (代)



生物顕微鏡の進化の実感

研究用顕微鏡

ECLIPSE Ni Series

従来の正立顕微鏡の枠を超えた基本性能の向上と、進化した階層構造によるシステムアップの自由度の拡大を実現した、生物顕微鏡の新しい頂点。生物科学・医学分野での研究の未来に新たな可能性を拡げます。



検査用顕微鏡

ECLIPSE Ci Series

“もっと楽な姿勢で観察したい”、“ワンタッチで操作したい” などなど、みなさまからの切実なご要望にお応えして進化した、Ciシリーズ。使い始めたその日から、今までにない快適さを実感していただけます。



株式会社 **ニコン ソリューションズ**

製品紹介サイト：www.microscope.healthcare.nikon.com/ja_JP

試薬・臨床検査薬・化成品・器材

KyotoWako

健康な暮らし、より良い未来、私たちは伝えていきたい

京都和光純薬株式会社

本社・京都営業所 kyoto@kyotowako.co.jp	(075) 661-3591 Fax(075)672-2173 〒601-8343 京都市南区吉祥院稻葉町31-1
滋賀営業所 shiga@kyotowako.co.jp	(077) 514-2451 Fax(077)514-2452 〒524-0035 滋賀県守山市阿村町流212-4
奈良営業所 nara@kyotowako.co.jp	(0744) 23-1311 Fax(0744)23-6691 〒634-0803 奈良県橿原市上品寺町370-55

What science can do

オンコロジー併用療法

アストラゼネカは、バイオ医薬品と低分子医薬品を併用することで、がん細胞を直接攻撃すると同時に、身体の自己免疫システムを活性化することにより、がん細胞の細胞死を誘発する治療法の開発に取り組んでいます。

免疫細胞への腫瘍の抑制シグナルを阻害することで抗腫瘍免疫を増強する抗体

Advancing Cancer Diagnostics
Improving Lives

Leica
BIOSYSTEMS

全自動免疫染色装置

New

BOND-PRIME

ユニバーサルアクセス、品質、スピードによる
診断効率の向上



T R A N S C E N D E X P E C T A T I O N S

販売名 ライカ ボンドプライム
医療機器製造販売届出番号:13B2X1026823B001

ライカ マイクロシステムズ株式会社 ライカ バイオシステムズ事業本部

- 東京本社 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場 1-29-9
- 大阪支店 〒531-0072 大阪市北区豊崎5-4-9 商業第2ビル10F
- 名古屋支店 〒460-0008 名古屋市中区栄2-3-31 CK22キリン広小路ビル5F
- 福岡支店 〒812-0025 福岡市博多区店屋町8-30 博多フコク生命ビル12F

Tel. 03-6758-5690 Fax.03-5155-4337
Tel. 06-6374-9770 Fax.06-6374-9772
Tel. 052-222-3939 Fax.052-222-3784
Tel. 092-282-9771 Fax.092-282-9772



danaher



Creating The Future

挑戦を続け、共に未来を創る

増田医科器械は、先進のテクノロジーと
熱いハートで、医療の現場や
研究現場のお客様、そして患者様の
お役に立つことが使命であり喜びです。



先端医療のバイオニアヘー。

株式会社 増田医科器械

〒612-8443 京都市伏見区竹田藁屋町50
Tel.075-623-7111 Fax.075-623-7131
www.masudaika.co.jp

人と医療を科学する・・・

「先生の検査室」をめざして



MEDICAL INFORMATION CENTER

株式会社 メディック



ISO15189認定

滋賀



滋賀・三重・奈良・大阪



米国臨床病理医協会(CAP)認定

滋賀



No.0713-ISO9001

滋賀・北滋・京都



14300008(09)

滋賀本社

滋賀県野洲市富波乙592

077-588-3456

北滋ラボ

滋賀県彦根市後三条町327-1

0749-26-1255

京都ラボ

京都府京都市山科区大塚壇ノ浦46-2

075-594-8181

他グループ拠点：兵庫/大阪/和歌山/三重/奈良/岐阜/愛知/静岡/長野/神奈川

<http://www.medic-grp.co.jp>